

須賀川市中心市街地活性化協議会第4回会議会議録（概要）

【日 時】 平成25年10月28日（月）午後2時～午後3時30分

【場 所】 須賀川商工会館2階 第3会議室

【出席者】 委員 16名
オブザーバー委員 3名（内代理1名 その他同行者1名）
事務局 2名
須賀川市担当者 3名
業務受託関係者 2名 計26名

【内 容】 協議
1. 内閣府提出案について
2. 計画案に対する意見書について

1. 開会 事務局 添田
2. 挨拶 長谷部一雄会長
(要旨) 本日の会議では、内閣府に提出する最終の須賀川市中心市街地活性化基本計画案について当局より説明をいただき質問等ご協議いただくことと計画案について市長に提出する意見書についてご協議いただくのでよろしく願います。
3. 協議 長谷部会長が議長となり進行
(要旨) (1) 須賀川市中心市街地活性化基本計画内閣府提出案について
[説明]
柳沼須賀川市商工労政課長が計画案概要について資料の順序に従い説明（省略）
今後のスケジュールについて、11月上中旬にパブリックコメントの募集及び住民説明会の開催などにより市民の合意形成を図る。同月中旬頃には中活協からの意見提出をいただき、市の諸手続きを済ませた後、12月に国に本申請をする予定である。
[質疑応答]
(オブザーバー委員)
資料の概要版2Pにある目標②の出店者数について、出店者数には閉店者数は勘案しないのか。
(柳沼課長)
閉店者数は反映していない。

(オブザーバー委員)

店舗数の純増を目標にしなければ、指標の意味が無いのではないかと。また、同ページの目標③の目標値は、災害公営住宅に入居する住民の数字であり、先ほどの説明では災害公営住宅以外にも定住化促進の取り組みに言及していたのだからその数字を目標にすべきではないかと。

(柳沼課長)

実現可能性において確実な数字ということであげさせていただいている。

(委員)

回遊数には歩行者数しか入らないのか。自動車を利用した移動が増加している中、数字目標については満足度とか別な指標がないのか。

(柳沼課長)

目標値設定の考え方は、実績を踏まえた現実的な数字、賑わいの目標、歩いて暮らせる、などの点を踏まえている。

(委員)

過去に視察した先進地では、歩行者の多い街は、かの地の商業者の意識が総じて高い傾向にある。歩行者数を指標にするのは妥当であると思う。また、街路整備事業などが行われると住民がいなくなってしまうことが多々あるので、今後区画整理事業などを行う場合があれば、住民がいなくならないようにしてほしい。

(委員)

事業の進捗のバランスをとらなければならない。例えば地権者の同意、財政措置などのタイミングが揃わなければ進まないと思う。

(会長)

計画書の134～139Pの定住化促進のところは、もう少し書き込んだ方が良いでしょうと思う。

(柳沼課長)

民間の集合アパートなどがあってもいいのではとの国の指摘もあった。民間ベースの動きがあれば随時対応したい。

(会長)

区域の拡大は、災害公営住宅の為か。

(柳沼課長)

災害公営住宅建設のほか、新道部分への商店街拡大を図るためである。

(委員)

定住化の具体的な誘導策がみられない。例えば介護・医療施設を併せ持った住宅建設に支援するとかの策が必要。満足度を追求しないとい街はできない。

(会長)

いろいろご意見を伺ってきたが、内閣府提出案については以上とする。

(2) 計画案に対する意見書について

(会長)

須賀川市長に提出する意見書について、事務局が作成した素案について事務局より説明する。

(事務局)

資料を説明、影山委員から意見が提出されている旨報告

(委員)

私たち須賀川知る古会の活動を通して考えてきたことを述べさせていただく。各地を視察するとまちの活性化に成功しているところは、街の特性を生かしているところである。須賀川にも数多くの物語があるので、それらを大切に残すことで訪れた方に須賀川を理解していただけたらと思う。今公立岩瀬病院が改築中であるが、ゆかりのある後藤新平を顕彰する後藤新平の会が発足した。旧市役所敷地のニセアカシアの木は、岩瀬病院の前身を町民が須賀川に誘致したときに尽力した橋本伝衛門ゆかりの木である。そういう物語性があるものを残してほしい。お渡ししてある資料の4項目「※参考(1)街の歴史、歴史的建造物、景観、樹木、文化など地域の宝を次世代に継承すること(2)中心市街地活性化のために「ふるさと歴史・人物館」の建設(3)景観条例の制定/文化財(及びそれに準ずる)の保護管理を積極的にする(4)市の震災復興においては、行政と市民が『須賀川市民憲章』の理念のもと、“自治の町の歴史”に倣って協働のまちづくりを進める」の内容の中に、例えば樹木や建物、文化財など須賀川の魅力をなくさないでほしいという思いが入っている。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。

(委員)

議論が広汎なので大変だなと思う。まずは建物をつくって利活用するということの方が大事なのではなかろうか。ここに書いてある全てのことをあの施設でやることは難しい。魂の部分とプレイヤーとしてどうしていくのかは考えなければならない。記念館をつくるのが本当に役に立つのか。例えば後藤新平については既に水沢に記念館があるし、台湾にも後藤新平を慕っている人たちの会があり活動している。そういう活動や勉強は点ではなく継続していかなければ意味が無い。あまりにも過大な期待をかけるのはいかながなものか。すべての歴史的なものを中心市街地にもってくるのは難しい。

震災から2年半経過して状況も変わってきているし、3年後も変わってくるだろうし、これらの案に対しわれわれ団体が協力して進めていくことが大事であろう。

(委員)

建物をすべて残せと言うのではない。行政の方にスタンスとして歴史を大切にしたいというのが私たちの会の意見である。

(委員)

後藤新平が台湾、満州で仕事できたのは、莫大な資金を使えたからである。本計画の場合は、そのような時間と資金があるだろうか。

(会長)

本日頂いた意見を踏まえ、また今後事務局から意見募集をさせていただいて提出されたものを盛り込んだものを意見書としてまとめ、次回決定したいので、よろしいでしょうか。

(委員)

記載の民間事業にコミュニティFM放送があるが、現在は音声だけでなく画像も送れるようになっている。県内では岳温泉で実施しているようだ。今後事業化を図る場合には検討すべき。

(会長)

榊こぶろ須賀川に伝える。

(委員)

市庁舎整備の際に大型バスが駐車できるスペースをぜひ設けてほしい。

(会長)

それではお忙しいところありがとうございました。